



第30回社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」
in 北海道三笠市



Agenda

#1

クラダシチャレンジとは

#2

8日間のスケジュール

#3

活動報告

#4

参加者の声

#5

事後報告会

#1. クラダシチャレンジとは

#1. 社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」とは

社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」とは

フードロス問題や地方創生に興味関心のある学生が日本全国の地域・農家へインターンとして訪れ、作物の収穫支援や現地での交流を通して一次産業や地域経済の活性化について考える取り組みです。参加学生の旅費・交通費や現地での滞在費、食費等は、地域経済の活性化と社会発展に寄与するために設立した「クラダシ基金」から支援しています。

クラダシチャレンジ実施の目的

活動中: 収穫したものをKuradashiのサイト上で販売することで、新たな収益を生み出し、経済面で地方・農家を支えます。さらに、学生が現地を訪れることで町に活気をもたらし、地域の魅力をSNS等で発信することでさらなる発展のパワーに繋がります。

活動後: 学生が自治体や農家の方1人1人の温かみに触れ、地方・農業の魅力を体感することで、将来のキャリア選択を通して地域に貢献しようという意識が芽生えます。

#1. 社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」とは クラダシ基金の概要

地域経済の活性化と社会発展に寄与するために
設立された支援金制度「クラダシ基金」



地方創生事業・フードバンク支援事業・教育事業・
食のサステナビリティ研究会の社会貢献活動に充てられます。

クラダシ基金とは

クラダシ自らが社会貢献活動を行うために
創設した基金で、ソーシャルグッドマーケット
「Kuradashi」上における支援先の1つです。

地域創生事業やフードバンク支援事業、教
育事業、食のサステナビリティ研究会の社
会貢献活動に活用しています。

▼参考URL

クラダシ基金について

: <https://www.kuradashi.jp/fund>

#1. 社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」とは 「クラダシチャレンジ」の目的: 地域経済の活性化

①三笠メロンの魅力発信

三笠市は、約100年前からメロン栽培が行われている「メロン発祥の地」です。しかし、知名度の低さや、規格外メロンの廃棄などが問題となっています。

そこで、クラダシチャレンジを通して学生が作業を手伝い、商品を Kuradashiで販売することで農家さんの新たな収入を生み出すほか、三笠メロンの魅力を全国に広め、三笠市の農業の発展に貢献します。

②地方の関係人口の増加に貢献、若者を呼び地域振興に

地元の方から見たら当たり前の風景でも、都心にいる学生から見ればとても価値のあるものに見え、**地元の商品や土地に誇り**を持つことができます。そして、SNS等を利用して地方の魅力を発信することで、**地方の関係人口の増加を図ることができます。**



③地域の特産品の購買促進に

三笠市には、クラチャレで収穫した三笠市メロンの他にも、玉ねぎなどの特産品に加え、三笠ジオパークなど様々な見所があります。そのような素晴らしい魅力を、活動を通してPRすることで、**購買促進・観光客の増加を図ることができます。**

第30回 社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」 in 北海道三笠市

- 活動内容:①三笠メロンの収穫・選果・梱包
 - ②三笠市役場の方との意見交換
 - ③現地観光
 - ④SNS等を利用した地方の魅力発信
- 開催期間:2023年8月3日～8月10日
- 参加人数:4人
- 実施企業:株式会社クラダシ(クラダシ基金にて運営)

#1. 社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」とは 北海道三笠市クラダシチャレンジの概要



三笠市は空知地方の南部、北海道のほぼ中央に位置しています。
約100年前からメロン栽培が行われている「メロンの発祥の地」でアンモナイトの聖地や炭鉱の町としても有名な歴史ある地域です。市全域でジオパークをなすほどの雄大な自然も有しています。



2022年6月にクラダシは北海道三笠市とイオンアグリ創造株式会社とともに地域活性・食品ロス削減に向けて「**三笠市における特産品のPR及び食品ロス削減に向けた連携協定**」を締結しました。
一次産業活性化に不可欠である、食品ロス削減に向けた取り組みを強化するとともに、地元の特産品や町の魅力の発信を通じて関係人口を拡大することを目指します。[※参照](#)

#2. 8日間のスケジュール

#2. 8日間のスケジュール

	8/3(木)	8/4(金)	8/5(土)	8/6(日)	8/7(月)	8/8(火)	8/9(水)	8/10(木)			
7:00		朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	移動 (6:00~)			
8:00		圃場見学 出荷作業 市役所 販売	出荷作業 草刈り		収穫	整枝作業	ポップ づくり 市役所 販売				
9:00											
10:00											
11:00											
12:00		昼食	昼食	昼食							
13:00		昼食	収穫	ジオツアー	出荷作業	昼食	昼食				
14:00		出荷作業					意見交換会		話し合い インタビュー		
15:00	移動 (~21:00)										
16:00											
17:00											
18:00		夕食	夕食	夕食	夕食	夕食					
19:00											

#3. 活動報告

#3. 活動報告:作業



【メロンの収穫】

一つ一つ手作業で、サイズや見た目から仕分けて箱詰めを行いました。その後、消毒やお便りの同封等に取り組みました。大半が繰り返しの作業だったため、やればやるほど効率が上がっていきました。



【圃場の整備】

桑を使って、除草作業を行いました。手で抜くよりも格段に早く作業をすることが出来るだけでなく、かがまなくていいため、腰痛の心配が無いことにも良さを感じました。



【出荷準備】

茎を切ってメロンの収穫を行いました。その際に、T字上に茎を残しておくことは味には全く関係ないが不可欠だと知りました。見た目の大切さは人間と変わらないのかと感じました。



【整枝作業】

不要な茎を切り、支えとなる割りばしを立てる作業を行いました。繊細で時間がかかる作業のため、想像以上に大変な作業でした。

「地下に眠る探鉱を再利用」

三笠市は探鉱で栄えた街でした。そのため現在でもその跡地や炭鉱は地下に眠っています。しかし炭素はCO2を発生させてしまいます。そこで、co2を用いた「家具」や「発電」の開発をしていると伺いました。環境にも優しく、この街ならではの豊富にある資源を有効活用しようとする挑戦心に心を打たれました。この co2を再利用する技術が確立すれば新たな脱炭素の動きにつながるのではないだろうかと考えました。



「害獣対策」

クマの頭数を一定にする(昭和60年まで)・罾を置く・猟銃などたくさんの対策をしているなど感じると同時に、もっと効率よく対策できないものかと疑問に感じました。1度完璧に対策することにより動物は利益がないことを悟り、諦めると思ったからです。動物の研究は特性やパターンをより精密に知ることが可能です。研究は堂々巡りの対策から脱すきっかけになるのではないだろうかと考えました。



「唯一無二の」

市内で栽培されるメロンなどを使用したスイーツブランド KURATSUTA に訪れ、デザインの仕事をしていらっしゃるからこそその視点や考え方を伺いました。その中でも「名前」についてのお話が印象に残っています。検索しても被らないということは商売をする上で、これ以上ないほどの利点だということに気付かされました。



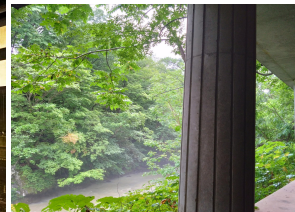
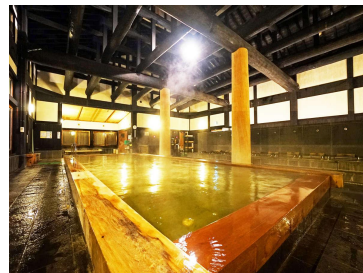
【三笠市立博物館】

ジオツアーに参加し、三笠市の地層の価値や三笠市の歴史について教えていただきました。良質なアンモナイトの産地として広く知られており、国内外から研究者が訪れます。年に一度行われる企画展では、ポケモンなどの人気コンテンツとコラボし、好評だったそうです。



【炭坑関連遺産】

三笠市は明治期～戦後にかけて炭坑として栄えていました。今はほとんどの炭坑が閉鎖されていますが、奔別の炭坑跡を見学させていただきました。現在、市役所をあげて炭坑の坑道跡に二酸化炭素を埋めるプロジェクトに取り組んでいるそうです。



【温泉と景色】

今回宿泊させていただいた「太古の湯」の温泉に大変癒されました。道の駅と併設されており、日帰り温泉としても利用しやすいと感じました。

三笠市が“桂沢神居古潭”と評されている、というお話を伺いましたが、幾春別川や桂沢湖といった魅力も多くある景勝地です。

#4. 参加者の声

三笠市クラチャレで得たもの

大学1年生なので人生初のインターンでした。今回クラチャレに参加した理由は、農業大学に入学したものの農業高校出身ではなく、農業経験が少なかったので、少しでも農業に触れてみたいと思ったからです。実際に現場に出て作業をさせてもらおうと、私たち若者でも大変なことがほとんどで、特にビニールハウスの中での作業は過酷でした。これを毎日やっている農家さんのすごさを実感したとともに、これを高齢の方がやるのには限界があるなと思いました。また、意見交換会では気になっていたことを直接聞けたのでいい機会になりました。

新しいことに挑戦しようとしても、今の現状を保つことに必死であるという話を聞いて、大学の授業で習った貧困の話に似ているなと思いました。貧困地域では、今日を生きるのに必死で、新しい対策を実行してもあまり効果がないそうです。それに対する対抗策で、あまり学校に行かせてもらえない女子児童が登校すれば、お金がもらえる、給食が無料で食べられるなどの活動を行っています。そうすれば将来、知識の高い子供たちが大人になり、故郷に恩返しができるようになるという長いスパンで考えられたものです。

それにヒントをもらって、三笠市の新しい農業従事者には生産が安定するまで、土地はたくさんあるのだから、無償で土地を貸したり、住居を貸し出したりするなどの対応策はどうかと自分なりに考えてみました。そうすれば、比較的若い層の人たちが移住してくる確率も増え、人口も増え、人手不足が少しは解消されるのではないかなと思いました。この問題以外にも様々な問題を考えさせられ、新たな発見や視野が広がった8日間でした。今後の大学生活は、農家さんや市の役員さんの目線も取り入れながら、過ごしていきたいなと思いました。



【東京農業大学大学1年 屋間琴美】

実りの多いクラダシチャレンジ

今回クラダシチャレンジに参加させていただき、知識面・精神面ともに得るものが大きかったです。知識面では、農作業の体験を通して、作業を行ううえで経験や慣れが想像よりも重要な役割を果たしていることを知りました。現在、農家にあこがれる若者や未経験者を積極的に受け入れる取り組みがなされていますが、採算が合わず農家を辞めてしまう人が多いという厳しい現状は衝撃的でした。

また、想像していたよりもずっと廃棄の量が多いことを目の当たりにし、クラダシによってそれらが有用に消費者の手に渡っていることに意義を感じました。精神面では、自身がまだまだ子どもであることを痛感しました。不測の事態に取り乱したり、場にそぐわない対応をとってしまったりと、反省点は枚挙にいとまがありません。しかし、そのような未熟な私に対しても一人の大人として向き合ってくださいました農家方々や市役所の方々には感謝の気持ちでいっぱいです。大変貴重な体験をさせていただいた一週間でした。素敵なインターンシップの参加者となれて光栄でした。ありがとうございました。



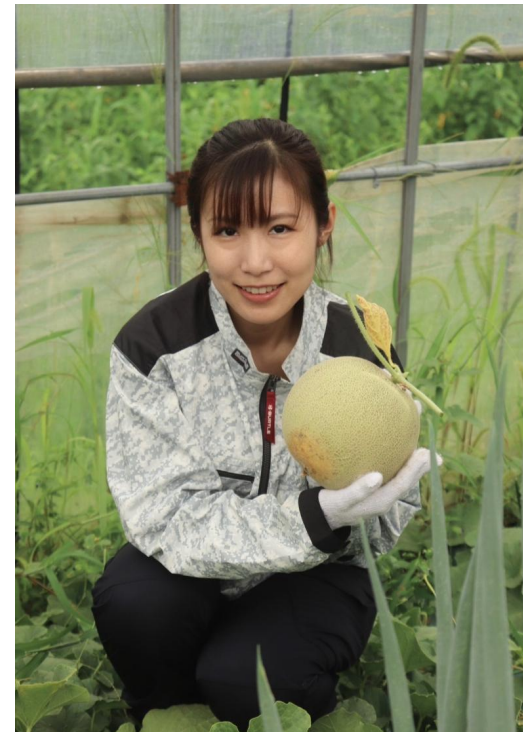
【早稲田大学2年 沢田まゆ】

かけがえのない時間

今回の三笠市でのクラダシチャレンジでは座学では決して得ることのできなかった「農業の面白さ」や「新しい考え方」を学びました。

私は普段からデータを用いた地域や産業の特性や傾向を分析し、政策や取り組みを発表しています。しかし、現場の状況がわからないデータでは地域活性化の素晴らしいアイデアには繋がらないのではないかと感じていました。そのためこの8日間は、驚きと発見の連続の日々でした。農作業は骨が折れる仕事が多いのですが、この自分の働きで数ヶ月後の出来栄が関係しているのだと想像すると、とてもワクワクして俄然やる気が湧きました。また、私の参加を知った祖母がクラダシのメロンを購入したことを知っていたので家族が喜ぶ姿が見たいなと思いながら作業をしました。自分の苦勞が目に見える形で現れるところや消費者に喜んでもらえることが農業の最大の魅力だと思います。また、アライグマや熊を実際に駆除しているところを見せていただいて、命の重さを感じると同時にその獰猛さに驚きました。害があるのなら駆除したらいいのにと簡単に考えていた以前の自分の浅はかさに呆れ、知識の大切さを改めて実感しました。

普段の生活の中では得ることのできない体験や交流ができるクラチャレでの貴重な時間は、私の人生の中でかけがえのないものでした。サポートしてくださった方々や職員の方、農家の方々には本当にお世話になりました。このクラダシチャレンジに参加できたことはとても幸運なことだと実感しています。ありがとうございました！



【中京大学3年 落合香帆】

食のありがたみ

今回のクラダシチャレンジを通じて、農家さんのお仕事について知り、その大変さを身をもって実感することができました。期間中は、積極的に様々なお仕事をいただくようにすることを意識しました。食べ物を買ったり食べたりするときに、今まで以上に感謝して食べると同時に、そのありがたみを人にも伝えたいと思うようになりました。

また、クラチャレを通じて、除草、整枝作業、収穫、出荷準備などを行う「パート農家さん」という制度があれば良いのではないかと考えます。具体的には、市役所などが仲介し、農家ごとに受け入れ制度をつくれれば良いと思います。仕事内容がシンプルで、少子高齢化委が進む中、高齢者の新たな職業として有効だと考えるからです。また、それにより、労働力不足解消や高齢者の健康寿命延長に繋がると思います。高齢者用求人サイトを設立し、そのサイトに口コミだけでなく、レーダーチャートのような表を添付して高齢者でも情報を読み取りやすくするなどの工夫をこらす必要はあると思いますが、有用な制度になると思いました。



【中京大学2年 金山彩音】

#5. 事後報告会

第30回社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」in 北海道三笠市の参加者による事後報告会を行いました。

- 日時:2023年9月11日(月) 13:00-14:00
- 場所:クラダシオフィス・オンライン配信
- 参加者:「クラダシチャレンジ in 北海道三笠市」参加学生
三笠市 碓井様
イオンアグリ創造 大塚様
三笠農場 山貫様
クラダシ社員
- 目的:参加した学生が、現地の方との交流・収穫支援の活動を通して見出した課題への解決策を提案する

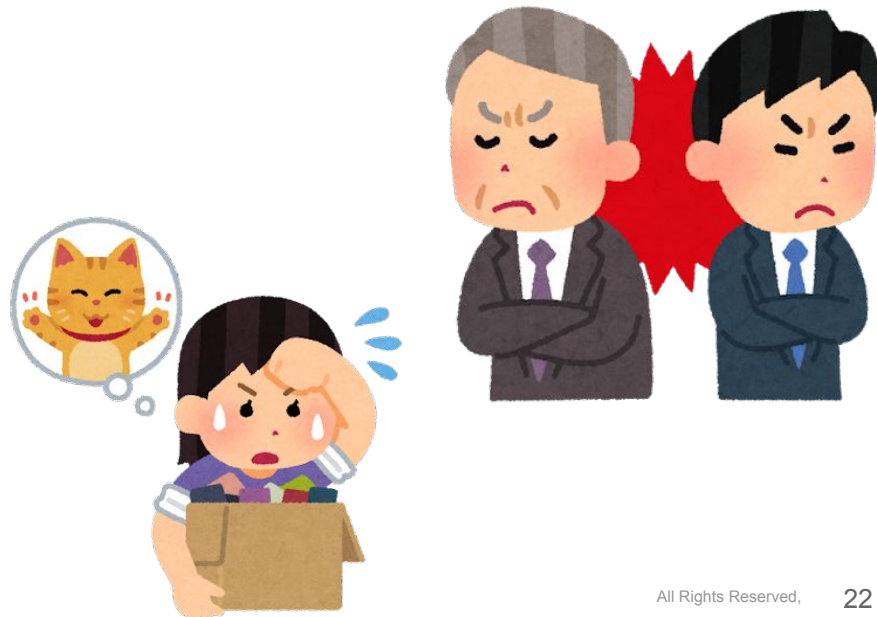
#5. 事後報告会(発表スライド「三笠市の課題発見・解決策立案」)

三笠市の地域課題

- ・人口の少なさ
- ・後継者不足
- ・PR不足

三笠市の現状

- ・メロン農家が3軒しかない
- ・後継者不足
↓
農家さん自体もこれ以上の発展を望んでなく、現状が保てればいい状態。
新規農家さんの定着率が低い。
- ・PRするまで、手が回らない。



#5. 事後報告会(発表スライド「三笠市の課題発見・解決策立案」)

メロン農家地域課題

・IKメロン栽培の難しさ ・三笠メロンの知名度 ・規格外メロンの活用

メロン農家の現状

- ・IKメロンの育成に苦戦
- ・メロンに特化したPRをしてこなかった
- ・地域的にも夕張メロンと比較される
(北海道のメロン＝夕張・富良野メロンの印象)
- ・規格外メロンが多く廃棄されている



#5. 事後報告会(発表スライド「三笠市の課題発見・解決策立案」)

現地で感じた印象・現地の声

- ・観光客が少ない
- ・年齢層が高い
- ・若い人たちが欲しい
- ・資金がない
- ・廃棄してしまうメロンがもったいない

目指すべき方向性

- ・本州から来てもらう
- ・規格外メロンの活用
- ・魅力があるもの



解決策立案

メロンパークを作る！ 

どのようなメロンパーク？

- ・工場見学
- ・パーク直営メロン収穫体験
- ・地域特産品販売
- ・規格外メロン活用品
- ・高校生レストランとのコラボメニュー



工場見学↓

【工場見学】

規格外のメロンをジュースやドライフルーツに加工する過程を見ることのできる**工場見学ツアー**を開催。

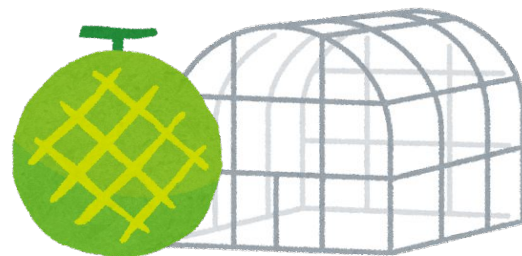
実食してもらい、もちろんその場で購入することもできる！
観光客が見学を訪れるほか、特産品の加工として北海道の学生たちの**社会科見学**や三笠市の**フードロス削減**に対する意義も大きい。



収穫体験↓

【収穫体験】

メロンパークからバスを出し、観光客に**メロン収穫体験**のプランを提供する。生産地としての強みを活かし、その場で採りたてのメロンを食べられることをアピールポイントにする。
出荷すると食べ頃を過ぎてしまうようなメロンをその場で提供できる。



#5. 事後報告会(発表スライド「三笠市の課題発見・解決策立案」)

地域特産品販売↓

【地域特産品販売】

三笠市の魅力を発信するものとして、特産品や地域生産品を集めたショップを開催。KURATUTAをはじめとする市内の飲食店に規格外メロンを安く卸し、メロンパークで販売！



規格外メロン活用品↓

【規格外メロンの活用品】

現状出でしまっている廃棄品を、

- ・ジュース
- ・ドライフルーツ
- ・菓子 etc. に加工する。日持ちするのでクラダシ他のネット販売の流通も増やす。



コラボメニュー↓

【高校生レストランとのコラボ】

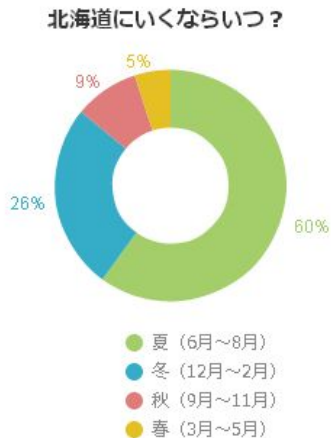
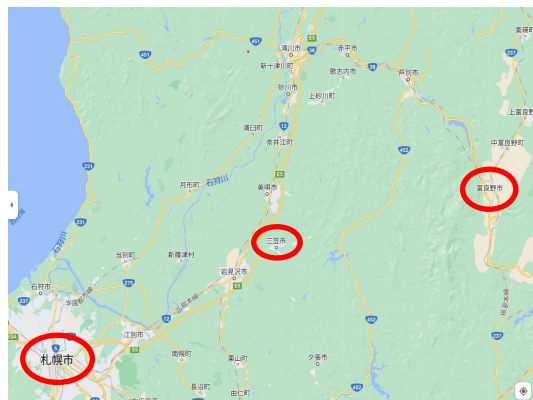
いくつもの企業とコラボし、商品開発を行ってきた高校生レストランの手にかかれば、三笠メロンの味を最大限に引き出す料理に仕上がること間違いなし！



#5. 事後報告会(発表スライド「三笠市の課題発見・解決策立案」)

メロンパークができることで...

- ・観光客の増加(特に夏)
- ・知名度の上昇
- ・移住者の増加
- ・メロンを新鮮なまま販売
- ・フードロス防止
- ・導線を生かせる



社名

株式会社クラダシ

設立

2014年7月

所在地

東京都品川区上大崎3丁目2-1 目黒センタービル 5F

代表者

代表取締役社長 関藤 竜也

事業内容

ソーシャルグッドマーケット「Kuradashi」の運営

URL

<https://www.kuradashi.jp/> (ショッピングサイト)

<https://corp.kuradashi.jp/> (会社HP)

株式会社クラダシは、三笠市以外の自治体でも支援を引き続き行なっております。
ご質問・ご相談等ありましたら、お気軽にお問い合わせください。